

慶應義塾大学大学院 文学研究科 修士課程

史学専攻 東洋史学分野

3つのポリシー

卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

教育目標

慶應義塾大学の卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）を前提として、アジア・中東諸地域の歴史・文化・現状に対する内在的・客観的・専門的視座、アジア・中東諸地域固有の諸言語や研究遂行上必要な諸言語の学術的な運用能力、歴史学とその隣接諸学の知見を十分に備え、それらをもとに新たな学術的成果を明示できる人材の育成を目標とする。加えて、教育課程において定める所定の要件を満たした学生に対し、修士（史学）の学位を授与する。

資質・能力目標

- （１）アジア・中東諸地域の歴史について、専門知識を身につけ、適切な研究方法に基づき、当該諸地域の諸言語や研究に必要な諸言語を駆使して専門的な研究を展開し、その成果を母語や外国語で発表する能力。
- （２）アジア・中東諸地域の歴史に関して修士論文を執筆し、さらに、修士論文のテーマに関連する領域については包括的な専門知識を有し、その領域の研究に貢献する力。
- （３）アジア・中東諸地域の歴史の専門研究を通じて人間、文化、社会を考えるとともに、重要な問題や課題を認識し、それを解決するための議論や実践を行うことができ、高度なリテラシーと批判的分析能力を備えた研究者、教育者、実務家として社会に貢献する力。
- （４）社会の中で歴史、特にアジア・中東諸地域の歴史を学ぶことの意義を自覚し、自ら設定した目標の達成や社会問題の解決を、ふさわしい方法で行う力。

教育課程編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）

教育課程の編成

文学研究科史学専攻東洋史学分野（修士課程）は、「卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）」に掲げる資質・能力を養成するために、東洋史特殊講義科目、東洋史特殊講義演習科目から構成される教育課程を体系的に編成する。

教育課程の実施

この教育課程の編成のもと、以下の教育方法を組み合わせて教育を実施する。

- (1) 史学専攻東洋史学分野のカリキュラムの基盤として、修士課程の全在学期間を通じて履修可能な、中国史学、中東・イスラーム世界史学など東洋史学の諸領域に関する、母語あるいは外国語による少人数の講義・演習科目を設置する。
- (2) 修士論文の執筆を可能とするため、指導教員が中心となって個別論文指導と演習授業を行い、研究テーマについての知識を深めるとともに、高度な研究能力および論述力を養う。また、修士論文中間報告会等の機会を設けて、複数の教員から指導を受ける機会を提供する。
- (3) 文学研究科ならびに慶應義塾大学国際センター、さらには学内外の各種留学制度などを活用した海外留学を推奨する。また、文学研究科独自の支援制度により留学を援助する。
- (4) 海外の大学院への正規留学によって取得した単位を修了要件に含めることを、単位数を限って認める。
- (5) 海外への留学等を念頭において、より柔軟な履修を行えるように全ての科目は半期科目として開講する。
- (6) 領域横断的な研究を可能とするために、慶應義塾大学大学院の他研究科および斯道文庫、言語文化研究所などの附属研究所の設置科目、さらに文学研究科と提携関係にある他大学院の設置科目を修了要件として履修することを、単位数を限って認める。

学修成果の評価方法

東洋史学分野の教育課程により修得すべき資質・能力目標に対する学修成果の評価は、全塾としてのアセスメントプランの考え方のもと、各科目において定める成績評価基準等に基づいた直接的な指標により行われるほか、各種アンケートや調査等を含めた定量的・定性的、直接的・間接的な指標を用いて評価される。具体的には、①学生による授業評価、②休学や退学の状況などを用いる。

修士論文審査については、論文題目の指導教員および文学研究科委員会による承認、主査（原則として指導教員）と2名の副査で構成される審査団の文学研究科委員会による承認、審査団による論文審査、審査団および関連教員による口頭試問を経て、最終的な審査結果を文学研究科委員会で審議し、承認する。

資質・能力目標と教育内容との関係

- (1) アジア・中東諸地域の歴史について、専門知識を身につけ、適切な研究方法に基づき、当該諸地域の諸言語や研究に必要な諸言語を駆使して専門的な研究を展開し、その成果を母語や外国語で発表する能力。
→東洋史特殊講義科目、東洋史特殊講義演習科目において、専門知識と研究方法を着実に身につけるとともに、研究内容を発信するための言語力を養う。
- (2) アジア・中東諸地域の歴史に関して修士論文を執筆し、さらに、修士論文のテーマに

関連する領域については包括的な専門知識を有し、その領域の研究に貢献する力。

→東洋史特殊講義科目、東洋史特殊講義演習科目および個別論文指導において、修士論文執筆に必要な、研究領域についての学識を深めるとともに、高度な研究能力および論述力を養う。

- (3) アジア・中東諸地域の歴史の専門研究を通じて人間、文化、社会を考えるとともに、重要な問題や課題を認識し、それを解決するための議論や実践を行うことができ、高度なリテラシーと批判的分析能力を備えた研究者、教育者、実務家として社会に貢献する力。

→東洋史特殊講義科目、東洋史特殊講義演習科目を履修することにより、研究・学習課題を自ら定め、達成する能力を育成する。

- (4) 社会の中で歴史、特にアジア・中東諸地域の歴史を学ぶことの意義を自覚し、自ら設定した目標の達成や社会問題の解決を、ふさわしい方法で行う力。

→東洋史特殊講義科目、東洋史特殊講義演習科目を含む文学研究科の設置科目に加えて、他研究科および斯道文庫、言語文化研究所の設置科目、文学研究科と提携関係にある他大学院の設置科目の履修も可能とし、東洋史学を中心に広く人文科学領域や隣接諸科学領域に関する理解を深める機会を設ける。

入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）

求める学生像

- (1) 卒業論文執筆や専門科目の履修等を通じて自身の専門領域についての理解を深め、中国史学、中東・イスラーム世界史学など東洋史学の領域全般についての基礎知識を有している。
- (2) 大学院において、東洋史学の何をどのような方法で研究したいのかという研究計画、あるいは専門的な知識やスキルの修得をキャリアにどのように活かせるのかについて具体的な計画を自ら考え、まとめることができる。
- (3) 東洋史学に関連する諸言語の一次資料および二次資料を正確かつ批判的に読むことができる基礎的な読解力、学術的内容を的確に論じることができる基礎的な表現能力を身につけている。
- (4) 修士課程修了後の研究者、教育者、実務家としてのキャリアについて、積極的に考えている。

選抜の基本方針

このような入学者を幅広く受け入れるため、一般入試により選抜を実施する。

- (1) 一般入試

専門科目・選択言語科目の二科目の試験および口頭試問による選抜であり、文学研究科史

学専攻東洋史学分野にふさわしい高い学力を要求する。